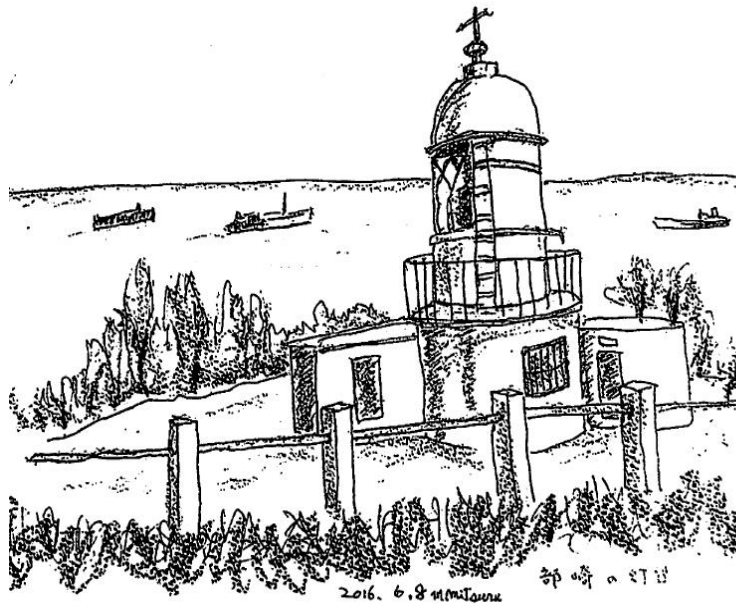


週報2021年8月15日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書43章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年8月15日

ピアノ 赤松眞佐子 姉 オルガン 力丸勝子 師
司会 吉田 到 兄 メッセージ 山崎銀次郎 牧師

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌 1「いざ皆きたりて」
祈祷	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*
祈祷	献身の祈り
賛美	新聖歌 282「見ゆるところによらず」
賛美	コーラス 3「心燃やしてさあ輝け」
聖書朗読	テモテへの手紙 第二2章 1-7 節
説教題	「恵みによって強く」
祈祷	御言葉の応答の祈り
頌栄	「主の祈り」
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈りあっていますか

説教要約

テモテへの手紙 第二 2 章 1-7 節

「恵みによって強く」

①力の源は神の恵み

テモテはパウロの愛弟子です。我が子のように大事に育てられました。そのパウロに命じられ、エペソの教会に派遣され忠実に仕えていました。しかし様々な問題に心が圧迫され、信仰は弱り果ててしまいました。そんなテモテの信仰を励ます為にパウロが書いた手紙、これがテモテ第二の手紙です。パウロが2章で伝えたかったことは、信仰生活の力の源は神の恵みです。

テモテ(の信仰)が弱り果てた原因はエペソにいた、偽教師の存在です。彼らは聖書の教えに反して、間違った教えを説き続けました。その結果、教会が混乱し、分裂していったのです。パウロから十分な訓練を受けてきたテモテでしたが、若い伝道者はそう言った現実を前にして、意気消沈しました。そこでパウロは、もう一度テモテに、経験や能力で選ばれ、その地に遣わされたのではないこと。今立っている場所で仕える事が出来るように神の恵みが支えている事を強調しました。

力の世界はあらゆる力を行使し、人をコントロールする世界です。そこに自由は無いとパウロは断言しています。神の世界は恵みと愛と平和による統率＝一致(意思が伴うから)です。時に私達はこの世の勢いや力に恐怖し信仰が怖気づきます。大切な事は神の恵みによって強くされる事です。私達は一方的な恵みによって選ばれ、恵みを伝える為に今の場所に遣わされています。愛と恵みによって力の世界に立むかって参りましょう。(エペソ 6:10～)

②苦しみの先にある神の栄光

パウロはテモテの信仰を励ます為に、三つの話をします。一つ目は上官を喜ばせる為に兵役に就く兵士の話。二つ目は競技場で栄冠を得る為に訓練に励むアスリート。そして三つ目は収穫の為に、労苦を惜しまない農夫です。この話の共通点は“成果を得る人とは労苦を辞さない人”と言う事です。

パウロはテモテに、「神の力によって、福音のために私と苦しみをともにしてください(1:8)」と言いました。つまり福音という栄光、栄冠、実りのために、

忠実に仕え切る事を勧めています。この例え話は偉大な方“イエス・キリスト”を示しています。主は神の栄光の為、苦難の道を歩まれました。それは人々が永遠の命、神の恵みを得る為です。

苦しみをともにすると言う事は、神の恵みがさらに広げられるように、労苦の中、忠実の中、僕の道をイエス様と一緒に歩く事です。私達は今の労苦が何の為かわからなくなる時に心のどこからパキッと音がします。つまり心が折れます。それは支えを失う事を意味します。イエス様の死と復活は私達といつまでも一緒にいる為です。イエスの名によって御言葉に従う時、驚くべき神の力を体験します。試練の先に受ける神の栄光があります。神の栄光を手にする為、主の力を求めて参りましょう。

③考える事は恵みの理解の始まり

パウロは2章1-6節の要約として「私が言っていることをよく考えなさい」と言っています。つまり私が言っていることとは、1. 神の恵みによって強くされる事。2. 世の価値観に流されず、生き様を通じて、恵みを伝える事。3. 苦しみの先に神の栄冠があることです。これらを言い換えると、この世の出来事の全ては神の恵みをもっと深く体験する為にあるということ、そしてその理解に至るように神からの力＝聖霊様の助けを求めることです。

テモテ第二の手紙はパウロが書いた最後の手紙です。多くの仲間はパウロを見捨てました。その上、パウロは自分の死期が近づいている事を悟っていました。この手紙はパウロが最後の牧会の引継ぎをする為に、自分の所(獄中)にテモテを呼び寄せる為に書きました。パウロが全身全霊をもって伝えたいことがありました。それは苦難の中にこそ、神の恵みは現わされると言う事です。(第二テモテ 2:8-10 と 4:6-8)

意味の見出せない働き、つまり目的のない働きは力を発揮しません。なぜなら、心が伴わないからです。ですから、私達には考える力が必要です。考える力とは、この出来事は神の栄光につながるという理解です。聖霊の力によって、苦難の中に現わされる神の栄光を期待するようになります。苦難や試練の中で受けた、神の栄冠はその人の内に一生の輝きを放ちます。それらの体験を正しく伝える人が良い教師だと聖書は言っています。共に主を見上げ前進して参りましょう。